

戦艦大和1田中敷水▼茨木1中山風水▼衣川1天津八千代。外に詩吟五題。

京都琵琶協会八月例会

八月十一日(出)午後三時嵐山の料亭対嵐坊。(次号詳報)

琵琶三美会十周年記念演奏大会

八月十九日(日)朝十時半京都四条堺町山一証券ホール、主催三美会(会長矢吹旭美津女史)後援京都府外。会員数氏の演奏に続き、筑前橋会派、同嶺派、薩摩、錦心流、錦各流派琵琶の応援出演や一絃琴の演奏もあって京阪神を始め東京、愛知、福井、山形、広島、福岡各府県の一騎当千の精鋭が研を競った。なお全三十四曲演奏の内、三才、四才、六才の幼児を含む十五才までの可愛い少年少女二十三人が独奏或いは合奏の二十三曲で錦上花を添え極めて盛会裡に終始して成功を治めた。会歌弁財天1会員一同▼敦盛塚1頃常▼北の庄1齊藤▼加藤清正1宮田旭穂▼筑後川1篠原旭洋▼禪師と正宗1細川旭穂▼敵島の戦1一坊寺旭清▼井伊大老1西村旭富▼曲垣平九郎1桜井旭富▼大楠公1田中鵬水(以上三美会員)▼一絃琴(泊仙操、須賀)1亀山恵美子、大西一毅▼(以下少年少女)君が代1二人▼蓬萊山1一人▼花咲翁さん1三人▼天神音頭1七人▼屋島の誓1山本▼桐一葉1田中▼バンドチャン1西田▼壇の浦1吉田、富▼花の白虎隊1菊地旭祐▼粟津ケ原1永井旭美▼城山1吉野▼戦艦大和1藤、松尾▼白虎隊1洲上▼(以下応援出演)千代の寿1大阪菅旭輝、吉田旭晶、内田旭波、菅旭香▼鴨川の露1京都林旭竜▼舟弁慶1(会王)矢吹旭美津▼小松の操1京都平井春嶺▼土くも1東京佐藤旭天紅▼屋島の誓1博多青山旭子▼西

郷隆盛1神戸久徳旭蘭▼盲目景清1東京水藤五郎▼名月逢坂山1東京鈴木流泉▼茨木1大阪山崎旭幸。

ラヂオ琵琶放送

八月三日(金)午後三時二十分NHK・FM。坂本勉作曲「琵琶と箏のための五重奏曲」第一琴坂本勉、第二琴坂本邦子、琵琶(薩摩)平山万佐子、十七絃小池玉久枝。(十分間)。

転居又は町名変更

○：木下皇水氏 京都府城陽市字水王小字北垣内一ノ六。
○：竹下翠風女士 東京都町田市金井町二六一ノ三八。
○：阿部万二氏 仙台市西多賀二丁目五ノ六〇。

予告

○ 京都琵琶協会九月例会 九月二日(日)昼一時本部平井春嶺氏宅。
○ 関西新進琵琶演奏会 九月十六日(日)昼一時大阪天満朝陽会館(主催小川吟水氏)。
○ 第十六回琵琶楽コンクール 九月十六日(日)東京銀座ガストホール。(主催日本琵琶楽協会)。
○ 藤巻旭鴻演奏会 九月二十三日(日)東京大手町農協会館。
○ 柴田旭堂演奏会 九月二十四日(日)休屋一時神戸市文化会館。東京前田秋声氏、京都平井春嶺氏その他協賛出演。
○ 筑前琵琶橋会全国大会 十月六日(日)昼大阪西本願寺御堂会館。
○ 都 錦穂演奏会 十月十六日(日)昼東京日本橋第一証券ホール。

○ 物故会員追悼演奏会 十月二十一日(日)正午京都東山仁王門前本妙寺。(京都琵琶協会・一水会京都支部、四明会共催。)
○ 筑前琵琶橋会全国大会 十月二十七日、八(出)両日鹿兒島市中央公民館。
○ 名古屋秋季演奏会 十月二十八日(日)昼十一時名古屋市中大須中小企業福祉会館。

あき

三伏の炎暑も終りに近づきようやく初秋九月の声を聞く。まだ当分は暑い日もあるがこれも時間の問題で辛棒せねばなるまい。人間国宝として文化財に指定されている京都祇園の井上八千代さんが先日テレビで記者会見をされていた。京の祇園町といえは芸達者揃いの芸妓舞妓たちによって毎年四月歌舞練場で公開される都踊(みやこどり)で有名だ。そしてこれら芸妓舞妓たちの舞踊のお師匠さんが家元の井上八千代さんである。その井上八千代女史が記者の質問に答えて舞踊は身体(からだ)で踊るのではなく心で踊るものであるとキッパリ語って居られた。蓋し名言である。何を今更...と云う人もあろうが琵琶も同様、口で歌い手先で弾くのは一つの手段で心で演奏すべきものでなければならぬと思う。心のあらわれが自然のうちに歌となり絃となつて表面に出てくるものと心懸けたい。

昭和五十四年九月一日発行(非売品) 編集者 植村 真 水 社 発行所 高槻市津之江北町一ノ二番 電話〇七二六(七三)六〇五一番

琵琶 機関紙

京

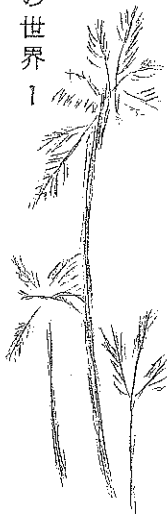
経

第三〇三号 京 経 社

琵琶 (一一)

忘れられんとする音の世界

村山道宣



盲僧派と当道派の抗争の中から(下)

肥後琵琶の成立

近世の盲僧派と当道派の抗争に、ほとんど影響されなかった盲僧たちもいた。それは、南九州の島津藩領の盲僧たちであった。島津藩は、延宝二年の幕府の公事の裁決に影響されず、藩内の盲僧を保護したのである。

しかし、一方では、肥後の盲僧のように、当道座の傘下に入ったものもあった。肥後琵琶の成立を伝える歴史は、その辺のことをよく示している。伝えられるところによると、肥後琵琶は、延宝二年、肥後藩主の細川公に随行し、肥後の国に下った平家琵琶の名手岩船検校(船橋検校とも云い古浄瑠璃も良くした)が、当時、上方で盛んであった古浄瑠璃を肥後にもたらし、盲僧たちに教えたのが始まりだとされている。その後、肥後の盲僧たちは、当道座の本所である京都の久我家よ

り職格を与えられたという。

肥後の盲僧たちも、他の地方の盲僧と同様に中世から近世にかかる頃には、くずれなどを演じ次第に芸能的性格を強めていったのである。その後当道の傘下に入り、肥後琵琶師として、くずれなどを表芸とするようになっていったと思われる。しかし、肥後の盲僧たちは、当道の傘下に入った後も、平家琵琶は用いず、笹琵琶(笹型・舟型)や、うぐいす琵琶を用いていた。私はこのようなところが肥後琵琶の特色があるのではないかと思う。「芸と被」に生きた、あの山鹿さんは、まさにこの肥後琵琶の伝統を継承していたと云えるであろう。

ここで、妙音講について少し述べておこう。妙音講は、肥後琵琶師たちが、当道派の支配力が次第に弱まる中で、自らの組織をひきしめる基盤にしたものであるが、肥後では戦前まで続いていた地方もあった。肥後の妙音講

(肥後琵琶の特色)

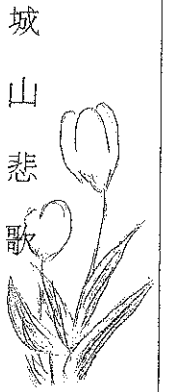
へ覆手(覆手)表側に「さお」と呼ばれる糸捲が付いている。この方が盲人には糸の補充などの仕事がいし易かったためであろう。さおの材料には竹、布、紙、かざらなどを使う。裏側には「竹ざわり」を付け、また「つんばり」と呼ばれる支柱を二本立てる。

陰陽道の影響(腹板に日月が印されていたり、棹や腹板に吉凶を占う為の星々を象徴した金具が付けられているものもある。また、五個の柱は木、火、土、金、水と称される。わたましの詞章の内容等を見ても明らかであるが、琵琶師達が自らの琵琶を権威づける為陰陽師や修験などの智慧を借りたことは十分考えられる。

へくずれ琵琶の特色(肥後琵琶の特色を示すものは熊本から北九州にかけて広く見られるが、恐らくその特色はこの地域に於けるすぐれた琵琶のものと考えても良いであろう。福岡県甘木市の「くずれ」を語る森田さんや、長崎市の山中さんの琵琶などはその特色を示している。

というのは、護り神、妙音菩薩(弁才天)を祭る琵琶師や警女などの行儀である。

妙音講の祭の日には、当番の家に酒、魚、米、その他色々なものを持ち寄り精一杯の御馳走を作る。集った者全員で妙音菩薩に般若心経を上げ、供え物をする。そしてその晩は遅くまで、それぞれの自慢の芸を出し合ひ、演ずる。この時には村中の人たちが聴きに來て大いに賑ったものであったという。



城山悲歌

西郷隆盛の終焉を偲ぶ

城山へは鹿兒島本線の西鹿兒島駅で下車し、バスで約二十五分、標高一〇七米、鹿兒島市のほぼ中央に聳える緑の丘で、昔、上山氏の城があった。

明治十年、西郷隆盛が西南の役で敗れた最後の戦場舞台で、西郷はこの地で戦死した。筆者は南州翁の冥福を祈りつつ筆を進めよう。

孤軍奮闘破圍還 一百里程壘壁間
我劍既折吾馬斃 秋風埋骨故郷山

明治十年二月、西郷隆盛が急遽編成した北上軍は約二千八百余、篠原国幹、別府晋介らの六個小隊を主力とし、桐野利秋の三個小隊を右翼に、村田新八の五個小隊が左翼を守って、二十五日熊本目指して軍を進めた。

熊本では雪こそ降られ、雨が彼等を悩ませた。春雨というような生まやさしいものではなく、氷雨に近い凜烈の寒気と雨に薩南の健児もふるえ上った。そして二十七日に至っても高瀬を奪取できなかった西郷軍は遂に戦法を変え、桐野利秋軍は山鹿方面に進軍し、篠原の率いる軍は田原坂方面に向った。田原坂の頂上までは百米弱で、現在の道は緩やかだ

が、他に道を探そうとすると急坂をよじ登らねばならぬ。田原坂を死守せんとする西郷軍と、これを抜かんとする鎮台兵との烈しい激闘は、前後十七日間に及んだ。

いま田原坂には記念碑が建てられていて、その碑文には「西郷隆盛立登脚崎岨 賊精銳を悉くして堅壘を築き 咆哮出沒虎狼の如くあり 要害形を異にし攻守勢を殊にし 而してわが軍死して戦うこと昼夜を分たず 十有七日にしてついにこれを抜く」とある。

元来この戦は無謀と云っていい。いくら薩南健児が白兵戦を得意としても、大砲小銃にガットリング機関銃まで登場しそうな時代では、刀槍に頼るといふこと自体既に小児病的である。経験もなく日も浅い私学校生徒が、西郷暗殺未遂事件などで激昂したとしても、西郷が曳きつられたといふことは、考えが至らなかつたといえる。

第一に、出発当時西郷軍には、大砲二十門、小銃弾百五十万発しか無かつたといわれる。これは兵一人について百発である。これでは一日の分量でしかないのである。

田原坂の戦いが如何に凄まじかつたかは、前述の碑文でもよく判るが、戦局は総て西郷軍の不利になつていた。進発のとき一万五千の西郷軍はその過半を失い、故山に向つて敗走の外なかつたのである。

西郷は椎葉を経て入吉に入つたが、その入吉も安住の地ではなかつた。四月二十九日に入吉を発つときは村田新八、池上四郎など二

千名で、その二日後入吉は陥ちた。後に残つた辺見十郎太は、遂に火を放つて敗走した。彼等には、まだ日向があつた、しかし村田新八の指揮で都城を死守せんとしたが、もはやそれも不可能で七月末には都城も陥ち、八月半ばには延岡も陥落した。

「新どん、帰りもそ、鹿兒島になあ……」遂に西郷の口からその言葉が洩れた。鹿兒島は地の涯で、それは最後を意味していた。西郷は鹿兒島で桜島の煙を見ながら死ぬことを想つた。村田新八は「ようこわす、西郷どんの行きなさつところならどこまでも……」

それは地獄までも、という意味だつた。西郷は深く頷いて諸將を集め、兵の解散を命じた。八月十四日、兵たちは官軍に投降したが、飽くまで西郷と生死をともにするとして残つたのは桐野、林田ら五百に満たぬ人数で、十七日夜半、西郷は股肱とともに官軍の包圍線を突破して可愛岳を脱出した。そして郷里鹿兒島に戻つたのは九月一日の深夜だつた。

西郷が城山の山腹にある洞窟に入ったのは十月の六日で、この洞窟は現在も保存されているが、砂岩の崖を掘つたもので二つあり、入口は狭く奥行も浅い。こんなところに入らなければならなかつたほど窮迫していたのかと、現地を視察して疑わしくなる程である。

十月も半ばを過ぎた。官軍は城山を囲んで猛攻撃をかけた。攻防戦とは云え、もはや西郷軍は自滅を待つにひとしく、官軍は砲弾、

なつて二十年間全盛を極めて来た、今や捕虜の身となつた以上、早く斬罪に処して欲しい」頼朝は重衡の態度に感心し心をこめて優遇したが、重衡の為に寺を焼かれ、殊に大仏殿を焼失した奈良の僧兵は、重衡の引渡しを強く要求したので翌年六月、之を東大寺へ護送することにしたが、途中木津川のほとりて斬られ、二十九才の命を終えた。

一の谷の戦いに勝利を得た源氏は、一応引きあげて戦後の処理に當つた。範頼は鎌倉に帰つて頼朝に報告し、八月八日には再び命を受けて鎌倉を出発、山陽道を下つて九州へ渡ろうとしたが、船がないのでためらつていた。その間に平家は讃岐の屋島に城を構えて再挙を謀つた。義経は京都守護に當つていたが、之を聞いて直ちに屋島攻略を企画する。

文治元年二月十六日、渡辺に諸將を集めて協議。梶原景時が「我々は船戦に慣れないので逆櫓を立てよう」と提案すれば、義経は逆櫓とは何かと尋ねる。梶原は「船の前にも、うしろにも櫓を立てて、前進も後退も自由に出来る仕組であります。」義経は「戦には一足も退くまいと思つても、苦しくなれば兎角退きやすい、それを前以つて退却の準備をして置くのは好ましくないと」と反対したが、梶原は快く承服した。

さて、いよいよ船を出そうとすると、風が強く波は荒い。船頭はこの風波では海を渡ることは無理だという。義経は「向い風ならば

九郎判官義経

はくすい



銃弾を惜しみなく叩き込んだ、その数実に数万発にものぼつたといわれる。西郷は洞窟を出た。従う者は桐野、村田らで、西郷が右大腿部に銃創を受けたのはこの時である。別府晋介、辺見十郎太が左右から支えて岩崎谷へ向つた。「もうこの辺でよかじやろう」と西郷は云いつつ自刃した。別府晋介が介錯したというが、一説には桐野か別府が西郷のうしろからピストルで撃つたとも云われる。

敦盛は十六才の少年であつた。位は従五位下だが未だ官職は無く、無官の大夫、敦盛と呼ばれていた(五位の人を大夫という)。平家が一の谷の戦で敗れた時、敦盛は萌黄匂の鎧きて鍬形打ちたる兜の緒をしめ、黄金造りの太刀を佩き、只一騎沖なる船目がけて海へ打入り一町ほど泳がせた時、追撃の源氏方勇士熊谷次郎直実がこれを見つて「大將軍の御身として敵にうしろを見せるは卑怯なり、返させ給え、戻させ給え」と、扇をあげて招く。招かれて取つてかへし、汀に打ち上らんとし給うところに、熊谷、波打際にて押し並べ、むす組みてどりと落ち、取つてお

さへて首をかかんと、兜押しつけて見たりければ、薄化粧して鐵鬘黒なり、我が子小次郎の齡程して十六、七ばかりなるが、容顏さことに美麗なり。「抑いかなる人にて渡らせ給ひ候ふやらん、名乗らせ給へ、助け参らせん」と申しければ、「先づかう云ふ和殿は誰ぞ。」「物その数にては候はねども、武蔵の国の住人熊谷の次郎直実」と名乗り申す。「さては汝がために好い敵ぞ、名乗らずとも首を取りて人に問へ、見知らうするぞ」と宣ひける。(平家物語)熊谷は助けたいと思つたが、あとから源氏勢が近づくと泣く泣く首を掻いた。平家物語を読む人は敵も味方も、後々まで敦盛のため涙を流したのであろう。

重衡は、平家の中では歴戦の勇将であつた。源三位頼政を宇治に攻め、東大寺・興福寺の僧兵と戦い、墨股に行家を破り、また木曾の兵を水島に迎え討ち、それぞれ戦果をあげた勇士であるが、不幸にして一の谷では捕虜となつて京に送られ、頼朝の希望によつて更に鎌倉に護送された。三月二十八日、頼朝は重衡と逢い「法皇の御憤りを慰め奉ると共に、父の恥をも汪ぎたいと思つて兵を挙げたが、連戦連勝して今やあなたにお会い出来たことは自分の名譽とする所で、遠からず宗盛公にもお会い出来よう。」と云えば、重衡は捕われの身ながら毫も恐れることなく、堂々たる態度で答えた「源氏と平家は、昔は相並んで朝廷に仕えて来たが、近年は平家の独占と

残 暑 御 見 舞

大阪中央部旭会

北 中 旭 蝶

〒671-20
姫路市花田町高木一八ノ四
電話〇七九二(二三)七一九五番

錦心流琵琶・国風流詩吟教授

野 田 勇 治 郎

(杉水・国堂)

〒523
近江八幡市正神町一〇
電話〇七四八三(二)〇五四七番

錦心流琵琶

馬 場 鴨 水

〒606
京都市左京区下鴨夢倉町一六
電話〇七五(七八)三〇五〇番

錦心流琵琶

植 村 寛 水

京都琵琶協会々員
錦心流一水会々員
日本琵琶楽協会々員

高 橋 蘇 水

〒040
函館市青柳町二六ノ一四
電話 (二六)一六二三番

錦びわ宗家

水 藤 五 郎

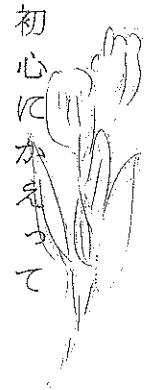
錦心流琵琶一水会多摩支部長
各流派琵琶武絃会事務所

伊 藤 磐 水

〒184
東京都小金井市本町一ノ八ノ五
電話〇四二(三八)三三四四番

〒176
東京都練馬区旭町三ノ二二ノ四
電話〇三(九三〇)四四九八番

兎も角、これは順風だ、風が少し強いからと云って戦をやめる訳にはいかぬ、船を出さねば船頭共を射殺せ。」これに恐れをなして、二百余艘の内ただ五艘だけが出た。先頭は義経の船で、常の時は敵も恐れて用心すらん、かかる大風大波には思ひもよらぬ所へ寄せてこそ、思う敵をば討たんずれ。そして義経の船以外には戦火をたかせず他の船は義経の船を目標としてそのあとに進んだ。摂津の渡辺を二月十六日丑の刻(午前二時)に出発、阿波勝浦に着いたのが卯の刻(午前六時)。当時の常識では三日を要する所を、僅か数時間であつてしまつたのである。



初心にかえつて

横須賀琵琶連盟会長

山 田 幻 水

(本記事は昨年七月二十日神奈川県田浦公民館に於ける高齢者教室で「古典芸術琵琶の起原、由来並びに現在について」と題する印刷物を、錦心流琵琶「吉野落二段」の演奏に併せて参加者に配布されたものの中から山田氏の承諾を得てその後段を抽出再録したもので、初心者には勿論、経験者にも参考として掲載した。なお題名は編集子の独断でつけたものである。一係！)

姿勢と琵琶・撥の持ち方

姿勢——琵琶は心の楽しみに弾くと云つても、浮わつた気持のものではないから、必ず端座して行なう。
琵琶の持ち方——まづ姿勢を正して自分の腹の平面に対して四十五度の角度に、前面から見て約四十度ぐらいに傾ける。そして左手の梅指と人差指の股とで鶴首を支える。左手は上の柱、下の柱と弾く場所に從つて移動させ、指で絃を押さえたりゆるめたりするので、掌の中に卵一個が入るくらいにあけるとよいと云われる。また腕を水平に近くなるぐらいに上げると形もよくなり、絃の押えもきく。

撥の使い方

右手の手首の力をぬいて、手首を内へ曲げて弾く。そして肩を大きな円の中心として、手首を円の中心として弾くようにしたらよい。腕を伸ばさず手首だけで弾くと、四の絃を弾く時、撓の縁と絃が平行になつて十分な音が出ない。
撓の使い方には絃を上から打つ払い撓と、下からはねる掛け撓とあるが、どちらも同じ強さで、ともに強く弾く必要がある。このためにも手首だけではうまくゆかない。よく琵琶は肩で弾くと云われるが、このことをいふたものである。

調子のとり方

まず一の絃と三の絃を同じ高さにする。

次に二の絃を上の方の柱のところでごく軽く押さえて弾くと、その音の高さが三の絃のどこも押さえない音の高さと同じになるようにする。また三の絃を中の柱でごく軽く押さえて弾いた音は、二の絃の高さと比べて一オクターブ高い。

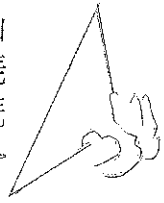
次に四の絃を下の柱でごく軽く押さえて弾いた音が、三の絃の高さと比べて一オクターブ高くなるように四の絃の高さをきめる。これで調子が整つたわけだが、調子が整つていても絃を押さえる時右か左へ寄せて弾けば調子が狂うわけで、いつも一直線に弾かねばならない。又新しい絃をかけた時は絃がゆるむので、絃を琵琶にかけてから大千の柱の辺りから覆手の絃止めまでを、あまり力を入れず順々に延ばしてゆくがよい。新しい絃は弾くにつれてゆるむから、時々調子を合わせる必要がある。

絃の押さえ方

中の柱をひく時は、上の柱は人差指、中の柱はくすり指で押さえる。この際人差指の方で一ぱいに締めて、くすり指の方はほんの添えに使う。これは上の柱は大千の柱との距離が遠く、押さえるのが容易であるし、また中の柱の方を強く押さえると音もぐらつくし、柱が早くいたむからである。
下の柱は中指とくすり指との二本で締めるが、指の先きを使う。

弾法の覚え方

先生の弾く弾法と曲譜を見ながら、まづ口琵琶を覚える。口琵琶とは、例えば弾き出しの初めの方はトッチャチャン、チャンギンチャンとなる。トッチャというのは絃を押さえずに撓で打ったもので、チャンは柱を押さえて撓で打ったもの、ギンは下から掛り掛り撓で、このようにしてまづ口琵琶で手数(てかず)と間(ま)を覚え、更に音階と余韻を覚えてしまおう。薩摩琵琶は柱の数が少なく独得の余韻が出るが、指を故意に震わせるのはよくない、習練を積めば無意識のうちに震えるようになるものである。



「薩摩桃山琵琶」の出現!!

薩摩琵琶楽器「桃山」は、琵琶楽振興発展の一助にもと、東京の柏木篤道氏が、従来のものに比し大して遜色のない新しい楽器の創作を心懸け、一昨年以来苦心に苦心を重ねられた結果このほど完成したもので、若い人が琵琶を習いたいと思っても、楽器が高価なため、この道に入るのを躊躇する人も多かろうと思われての貴重な作品である。即ち、現在の薩摩琵琶楽器は、入手や作業の困難な桑材などを主材とし、しかも時節柄

モービル音楽賞

鶴田錦史女史受賞

第九回モービル音楽賞の邦楽部門受賞者に、琵琶の奏者として国際的に活躍される鶴田錦史女史が選ばれた。贈呈式は十一月中旬。本賞トロフィーと副賞八十五万円が贈られる。女史は明治四十四年北海道の生まれ。六才から琵琶を学び、昭和三十九年小林正樹監督映画「怪談」で「壇の浦」を自作自演して注目された。その後ニューヨーク・フィルと武満徹作曲の「ノーベンバー・ステップス」で共演し国際的な評価を確立した。



故錦穂全集

テープ全二十四巻 故人七回忌にあたり六十三曲収録の別冊歌詞集を和装幀にて刊行。テープ五巻以上お申し込みの方に添付頒布。一巻より十五巻まで演奏後に錦穂自身による芸談を収録。 各巻 三、〇〇〇円 (送料二〇〇円)

お申込み先 錦びわ本舗

〒176 東京都練馬区旭町二ノ二二ノ四 電話〇三(九三〇)四四四八番

連絡先 京 経 社

八坂神社琵琶奉納

演奏会感想記

祇園祭十七日、「梅雨空を華やかに染め錦の行く。」という夕刊記事を見て巡行風景を思い浮べた。 さて例年の催しである京都琵琶協会主催奉納演奏会は七月二十三日(月)午後五時開演。 まず冷房のよく利いた控室大広間に落ちついた。四時半本殿に坐し、一同祈禱を受け再拜す。能楽殿では舞台の準備も済み、場内

にはテント、腰掛が用意してある。

五時開演には、も早や五、六十八近くの聴衆が開演を待ち、午後の日ざしを避けて樹かげに憩う人々も足を止めて妙音に溶け込んでいた。本年も平井、梅原、矢吹氏一門の人たちも参加され、神戸田中敷水氏も初出演「本能寺」を演奏するなど異彩を放った。

万燈の提灯が輝いて、祭礼気分が漂っているが、還幸祭の前夜はいかに静かに心ゆくまで琵琶を觀賞された。

かくて長時間に亘る演奏も平井会長「城山」を最終に滞りなく終るとともに、一同献奏への有難さを身に感じ九時すぎ散開す。(演奏曲目と献奏者別記参照) 鴨水記

名古屋秋声会夏季研修会

六月二十七日(日)名古屋古屋市名東区日本厨房工業ビル五階。前田秋声氏を始め阿部秋子女史とその一門の外奥村慧水、福井市西川磯水、岸本港水の三氏来賓出席。

日本琵琶楽協会の臨時総会

七月八日(日)昼一時東京豊島区高三会館。①上半期決算及事業報告、②参与の推せん、③関西支部理事委嘱の件、④コンクール実施の件、⑤その他。このあと懇親会。

日本芸術琵琶普修会七月例会

七月十五日(日)昼一時東京文京区大塚の貸席京屋。弾法各種：錦幽、茨木、青木早水、横笛、高田栄水、忠度、坂入俊風、七郎落、伊与田詩水、椎葉情緒、内田隆章、西郷と蓮月、磯田旭竜、衣川、若宮旭登、異国の丘、杉山旗水、大高源吾、日比桜花、井伊大老、原田旭鳳、黒田武士、山崎錦幽。以上研修のあと小宴を開き六時半散会。尚八月は暑中休会。

第五十一回長田神社奉養

七月十七日(火)夕四時神戸長田神社、奉養神戸旭岡会(会頭松岡旭岡、幹事長田中旭昇氏)月に偲ぶ一歌一、絃八、菊水の旗、泉谷旭紅、絃旭山、坂崎出羽守、駒栄旭良、絃旭昇、二〇三高地、伴旭友、大石王、丸尾旭宝、絃旭昇、新撰組、能勢旭陽、姫ゆりの塔、西川旭操、那須与市、浜本旭好、玉藻の前、西川旭山、安宅の関、富樫旭桂、曾我兄弟、伊藤旭暢、大物の浦、田中旭昇、長田の大神、松岡旭岡。

薩摩琵琶東西合同一泊弾交会

七月二十二、三(日)両日熱海伊豆山岩間荘正絃会、鶴絃会、四明会共催。台湾入、若林鶴山、城山、松浦鶴雲、彰義隊、松永琴城、滝口入道、中村鶴翔、川中島、岡尾鶴城、菅公、大場暁鐘、薄陽江、上、松本輝苑、菅公、遠藤鶴東、忠度、佐野輝洋、吉野落、上、高林輝明、同(下)、大富士岳、岫峨、石川輝晃

第二十四回祇園八坂神社奉納演奏会

七月二十三日(月)夕五時、主催京都琵琶協会。五条橋、平井春嶺、山田明嶺、川中島、馬場鴨水、小栗栖、岡本旭村、本能寺、田中敷水、お市の方、梅原旭瀟、衣川、国友旭香、白虎隊、山岡旭清、常陸丸、矢吹旭美津、八甲田山の露、牧南水、舟弁慶、荒木旭媛、桐一葉、斎藤見津枝、禪師と正宗、桜井旭富、新撰組、木下皇水、扇の的、水内煖水、城山、平井春嶺。(出演順不同)

一水会青少年開発部第二回演奏会

八月五日(日)夕五時半東京上野本牧亭、主催一水会本部。新曲白虎隊(逗葉)、樋口精岳、五月雨(岳南)、久保田米詔、衣川(逗葉)、樋口精昇、姫ゆりの塔(富山)、杉本頌容、川中島(逗葉)、大越鉦泉、戦艦大和(藤沢)、永井絞水、白虎隊(横浜)、樋口水、城山(酒田)、池田青水、瓜生岩子(崎玉)、寺内峰水、花吹雪(横浜)、荒井姿水、雪晴れ(大阪)、杭東詠水、巖流島(酒田)、佐藤智水。

大阪安井神社天神祭に琵琶献奏

七月二十五日(日)朝十時、主催大阪琵琶同好会。河内の宿、朽木、吉野徳古、米原、湖水渡り、島津旭都、石童丸、入江旭女、白虎隊、矢野旭信、本能寺、辻旭城、井伊大老、花旭友、菅公、石橋旭嶺、堅田落、巻田旭玄